

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2016 年 11 月号 (第 99 号)

発行責任者 稲村 洋二



「歴史散策クラブ」江戸川流域・流山散策 近藤 勇陣屋跡 内田 慈男/撮影

第 10 期総会と懇親会のご案内

ところざわ倶楽部会長 稲村 洋二

会員の皆様にはすでにご案内済ですが、
第 10 期ところざわ倶楽部定期総会を 11 月 22 日 (火)
ミューズの管理棟で開催いたします。

第 9 期の倶楽部の運営は

- ① 倶楽部のあり方を検討する
- ② 10 周年記念事業の企画をたてる
- ③ 第 1 回サークル発表会を開催する
を運営の中心に置き進めてまいりました。

総会では定例の活動報告、会計報告・予算の承認と同時
にあり方検討委員会の結論としての「会則の改定」と
10 周年記念事業としての企画「ハーメルンの笛吹き男」
を審議いただき、承認を得たいと考えています。

総会終了後は昨年同様に、市民大学修了年度毎にテー
ブルを設け、同期会的懇親会を開催いたします。懇親会
は会員皆様の集いの場所です。懐かしい仲間同士大いに
語って下さい。皆様の参加をお待ちしています。

総会:平成 28 年 11 月 22 日(火)
13 時~16 時(総会・懇親会)

会場:所沢市民文化センター
ミューズ管理棟 5 階



昨年の懇親会風景



なぜ「倶楽部」かを考える

葵の会 島川 謙二

原点を問いかける

来期に創立 10 周年を迎える「ところざわ倶楽部」に思うことを書いてみたい。今までで、ところざわ倶楽部の危機の時期といえば 8 期の文化祭直前に会長が任期途中で辞任した時期であろう。説明責任を果たすことなく去っていった無責任な誠実さに欠ける行為に対し、会長代行以下理事全員の一致団結と会員の皆さんの協力で乗り切ったのであった。

私は「広場」88 号で「原点に帰れ」と書いた。

一人一人が『私にとって「ところざわ倶楽部」とは何か?』を問いかけることが原点である。

理念の共有を

また 3 年前の 57 号で「袖すり合うも他生の縁」であり倶楽部会員のなかまは「自主性を大事にして、生涯ずっとたのしく学びつづけて、(できれば) 地域貢献もしたい」という理念を共有したいものだと書いた。この「高い志」を掲げつづけることが「ところざわ倶楽部」の会員にとって原点である。あえて「なかよしクラブ」や「老人クラブ」とはちがうとも書いた。ところざわ倶楽部の理念に共鳴し掲げつづけられるかをも自問することだ。「人間は自分の能力、可能性を最大限に発揮したい、その自己実現のために、たえず成長していきたい生物である。」と心理学者マズローは言っている。

信頼のバトンタッチ

夏のリオ・オリンピックでは、男子体操日本の演技にも感動したが、一番感動したのは男子 400 メートルリレーで銀メダルを取ったシーンである。9 秒台の選手が 1 人もいないのに 37 秒 60 で銀メダルを獲得。準決勝の 37 秒 68 を 100 分の 1 単位で速くす

るために、4 人は相談。バトンを受ける 3 人は合計で 30 センチ前に出て加速スピードを上げることを決めたという。「お互いの信頼感」なくしてできることではない。ところざわ倶楽部にとって「老い」という避けられない宿命と向き合いながら、うまくバトンタッチをしていくことができるか、である。

なぜ「倶楽部」なのか

会則第 5 条の「本会の会員は所沢市民大学を修了した者とする。」を「原則として所沢市民大学を修了した者とする。」に改定したいという。これは細則第 5 条の「サークルは原則として会員で構成する。」に対応したものであろう。いままで市民大学修了生でない者が、ところざわ倶楽部の年会費を払わずに、ところざわ倶楽部の財産であるサークルの一員としての活動することを「黙過」してきたが(現在 27 名)、「会員」に「明文化」して認めようという改定案である。

なぜ「ところざわ会」ではなく「ところざわ倶楽部」なのか。

倶楽部とは何か?たとえばゴルフ倶楽部を考えてみよう。ゴルフ倶楽部は会員のためのものであり、非会員はビジターとして会員よりも高いフィーを払ってプレーができる。こうした知恵の規定が「倶楽部」には存在する。

10 期以降も「ところざわ倶楽部らしさ」を発揮して、たのしく活動していくためには真面目すぎるといわれる状況を払拭し、不真面目ではなく「非真面目に」活動することが必要だろう。たのしいことが継続の力であるから・・・。

10 月度 理事会報告

総務部長 石堂智士

1. 会長挨拶

第 1 回サークル発表会を行い有意義だった今後も開催し、サークル相互の交流と親睦を目指す

2. 総務部案件

①あり方検討委員会の第 6 回進捗報告

理事会に提案する会則改定案を審議、会則改定の目的は、会員資格を緩和して一般市民の参加を認めるとした

②来期理事交代のサークルは 7 サークル

3. 事業部案件

- ①「第 1 回サークル発表会」報告
- ②定期総会及び懇親会の日程と内容紹介
- ③23 期市民大学修了生への倶楽部サークル紹介

4. 広報部案件

「広場」本年 12 月号で 100 号!

5. 次回理事会は 11 月 14 日、新旧理事出席
生涯学習推進センター102 会議室

特別会員リー寄稿

幕末維新期の海外留学生

明治大学名誉教授 渡辺 隆喜

遣米使節団に関心—アメリカへ

今回は私の海外研究の話をしましょう。

今から 30 年前、私はアメリカ、イギリスを中心に海外研修に出かけました。この時私の課題は、幕末維新期の海外留学生の研究で、特に近代の「自由平等」概念の、憲法にも取り入れられる日本への導入過程に興味をもっていました。私の勤務先の大学の建学理念も「自由平等」です。

海外研究出発当時、直接の興味は小学生以来の遣米使節団の動向でした。現地新聞の分析を通じて、日本の世界史への登場過程を明らかにしようとしたのです。

私が小学校 3 年生の時、終戦になり、その直後の学校は混乱していました。教師による往復ビンタはなくなり、クラスの名前は戦前の、忠・孝・悌から松・竹・梅へ。やがて 1・2・3 組に変わりました。教科書も黒塗り手伝い、最初は粗末なワラ半紙の牛若丸の話でしたが、すぐにホイットマンの詩集「草の葉」に変わりました。チョン髻姿の若者が、国の運命を背負って威風堂々と行進し、大統領の謁見に臨む遣米使節団（万延元年）の姿が詠まれています。私はこの若者に新しい日本の出発点を見た詩人にあこがれていました。

そのため、フィラデルフィア訪問の時、隣のライデン市にホイットマンの生家（文化財）を訪ねました。ア



メリカも自由を求めて立ち上がった独立当時の国会議事堂や自由の鐘がフィラデルフィアにはあります。この夜ヒルトンホテルに泊まり（隣接のペンシルヴァニア大学では、この時、野口英世展が開かれていました）、翌日ウッドランドの共同墓地で、馬場辰猪の墓を探しました。

馬場は土佐出身、ロンドン大学に留学、法学院でローマ法を学びます。明治 6 年当時、100 人ほどの日本人留学生の会を組織し、これを基礎に、帰国後は「共存同衆」という日本最初の演説結社を組織し、最初の民間の憲法草案を作成します。自由党が結成されると、幹部として自由民権運動で活躍し、その後弾圧された日本を脱出、渡米して、明治 21 年に 38 歳でこの地で

死亡します。自由を求めた一生だったように思います。

ロンドン大学—チョウシュウ・ファイブ

アメリカの後、私はロンドンに渡り、ロンドン大学に籍を置き、日本人留学生の研究を始めます。ロンドン大学最古のユニヴァーシティ・カレッジに最初に入學した日本人は、文久 3 (1863) 年の伊藤博文、井上馨、野村弥吉、山尾庸三、遠藤謹介の 5 人です。



半年後、伊藤、井上は、ロンドンタイムズに報道された日本での四国連合艦隊と長州藩との戦（下関戦争）の記事を見て、急遽帰国します。

それはグリニッジ天文台の裏手にひろがるロウテンダの軍事博物館に展示された世界中から分捕った武器を見て、日本からの戦利品が粗末すぎ、世界を相手に戦うのは無理と感じたからと言います。帰国時すでに戦争は終わっていましたが、開国派として尊攘派の藩士に襲われながら、藩首脳と共に戦後処理に尽力します。こうして藩の実力者に成長するのです。

現在ユニヴァーシティ・カレッジの博物館前に、日本人留学生を記念して「チョウシュウ・ファイブ」（長州の 5 人）の碑が立ったと言います。私の調査時は無かったのですが、山口県では建碑を機に映画を作成しています。私は帰国後、山口県で講演をしたこともあり、山口新聞から取材も受けました。

新日本建設に健闘した留学生

ロンドンでは東郷平八郎の調査を試みました。練習船に世界史上の有名人として、英女王と二人のみの写真が飾られていることは知っていましたが、むしろ慶



森 有礼



五代才助

応元年密航の、薩摩藩士森有礼（初代文部大臣）や五代才助（船奉行、関西財閥、NHK「朝が来た」のディーンフジオカの役）、幕府派遣の順天堂初代佐藤泰然の子林黨三郎（外務大臣）、菊池大麓（東大総長）により興味を持っていました。菊池は後にケンブリッジ大学に転じ、優等生として紹介されて、日本人の地位を高めたのです。留学生は新日本建設のため健闘していたのです。

「広場」10年の歩み

12月号で100号を迎える！

池田新八郎（編集委員）

市民大学が2年制となった最初の14期修了生93名が参加して、第1回総会が平成19年11月20日開催され、「ところざわ倶楽部」は結成されました。そして翌月12月15日「ところざわ倶楽部広場第1号」を発刊致しました。また組織も固まらず、何から始めたらいいのか分からない状況でしたが、とりあえず「市民大学便り 現市民大学通信」の1Pを借りて、広場はささやかにスタートいたしました。この時から次号で100号にもなるのかと感慨深い思いです。

この年、私は16期「市民大学便り」の編集担当で、「広場」掲載の相談を受け、併せて広場への協力（第1期広報担当理事）を依頼されました。以降9期の今日まで、第3期を除き何らかの形で編集に関わり、編集者の立場で、ところざわ倶楽部の歴史を見つめてきました。

広場の創刊に尽力された広報部長平栗彰子氏が、パソコン編集を学習され、紙面づくりに頭を痛めていた姿、広場を市民大学通信から独立させ、2Pから4P、6Pへとページを拡大、孤軍奮闘されていた清水仁一氏（第2期、3期）の姿が思い出されます。部長のみならず編集委員、多くの会員の皆様の支えがあったればこそ存続できたと思っています。

私ははからずも第4期から7期まで広報部内の事情で、4年の長きに渡り広報部長を務めることになり、加曾利厚雄会長の意向のもと、4つの改革を実施いたしました。①紙面の刷新—8P体制 メリハリある打ち出し レイアウトの統一感 ②編集体制の確立（理事以外の編集委員を依頼 7、8名のスタッフ） ③ところざわ倶楽部HPの開設（当初半年ほど中断しましたが翌年3月復活、今日に至る） ④広場のメール配信と郵送の実施（創立当初サークル責任者が学習センターに取りに来ることになっていたが、徹底されず届いているかどうか確認できなかった）。

8,9期は仲山富夫部長のもと、従来体制を維持、HPも路線化され、順調に推移しています。

編集の立場で現在の広場がどう評価されているか分からないが、このような広報紙が10年も存続できたことは、やはり倶楽部会員の紙面、原稿協力があったればこそと思います。すばらしい倶楽部会員、良き仲間の輪がさらに広がり、存続できることを祈っています。広報紙「広場」はその時々ところざわ倶楽部の姿を写し出しています。※広場創刊号からのバックナンバーは、倶楽部HPに掲載されています。

市民大学23期グループワーク発表会

500人近い来場者！

23期企画委員長 佐藤 重松

10月6・13日の二日間、7つの分野で発表。どのグループに於いても素晴らしい発表内容でした。①福祉Gは「高齢社会と地域福祉」をテーマに、＝最後まで自分らしく暮らせるまちづくりへ＝ 様々な指標に基づいて問題提起と提案が。②農業Gは「市民から見た所沢市農業振興」について、そのための環境づくりを提言。③音楽Gは「シューベルトの生涯と作品」について、時代背景と1000曲を超える作曲、素晴らしい詩との出会いや魔王をはじめ何曲かをBGMに、3編の素晴らしい詩の朗読と、最後に菩提樹を会場と一体となって合唱！ブラボー。④美術Gは「ルネサンス」～人間発見の時代～ルネサンスとは何か、またルネサンス期の芸術家たちとその作品の特徴など、わかり易く解説され、絵画を鑑賞から、絵画を読み解くへと導かれました。⑤所沢のまちづくりGは「新生所沢！」を目指して、少子高齢化問題から、学校の空き教室再利用について提言。藤本市長がそれに答える一幕。⑥地域の自然Gは「所沢の自然を楽しもう！」所沢を散策して、自然を楽しめる所が沢山残っ

ていること。それらを守る為に、何をしなければならぬかを提言。共感を呼びました。⑦文学Gは「司馬遼太郎と日本・日本人」と題して、司馬遼太郎の生涯と作品・司馬遼太郎が歴史の中に見た日本・日本人。そして「21世紀に生きる君たちへ」のメッセージの朗読で結ばれました。

どのグループもよく調べ、提言を盛り込んだ説得力のある内容でした。多くの皆様のご来場有難うございました。感謝申し上げます。

10月20日修了式&修了パーティ

23期受講生は80名で開講式を迎え、講座聴講をはじめ、グループ運営や課外授業、サークル活動と活発に交流と親睦を深められ、健康上の問題で修了式を迎えることができなかった7名の方を除いて73名が修了証書を授与されました。修了式終了後、ベルヴィザ・グランにて、無事に修了出来たことを喜び合い！感謝と親睦の宴が熱気に包まれました。

「私にとっての昭和」
第10回

高度成長時代を享受

田中 建夫

邦歴「昭和」は、戦争の時期を挟んで戦前と戦後の三つの世相に分けられよう。

私は、団塊世代のトップを切って昭和22年、津軽の小さな村に生まれた。

村の周囲は一面の田んぼに囲まれ、屋敷の南にはリンゴ畑、家は茅葺で、各部屋に吊ってある裸電球が唯一の電気製品で、ラジオも無かったようだ。唯一新聞が情報入手の手段であった。昔から変わらぬ静かな田舎の原風景が私の記憶に残っている。

しかし、小学校へ入学前には父の勤めの関係で青森市（県庁所在地の都会）へ移った。

小学校入学式では新生生の多さに驚いた。1クラスが50人で、ほとんど最後部の入り口あたりの椅子にころうじて座れた。校舎はかつて兵舎か兵学校であった木造のボロ校舎で床板もめくれている箇所が多かった。爆発的に増えた新生生に行政や学校側の対応も追いつかず、混乱が多かったようだ。おそらく終戦直後で行政も貧困だったのではないだろうか。

近所にはかなり大きな木造平屋の母子寮もあって、戦争や空襲で夫を亡くした母子たちが暮らしていた。また、白衣の傷痍軍人が歩道にゴザを敷いてアコーディオンやハーモニカを鳴らしていたのも見かけた。いまだ戦争の傷跡が見られた頃でもあった。

小学生時代は近くの貸本屋から漫画本を毎日借りて来ては六年生くらいまで読みふけた。週刊の『少年マガジン』や『少年サンデー』なども出始めた頃と思う。母も働いていたので、家事の省力のため販売促進に来た電気洗濯機や足踏み式のミシンを買った。六年生のころに母が胃潰瘍を患って入院したので電気釜を買った。テレビはいまだ一般家庭には普及していなかったが、友人の父の会社で大きな会議室の正面に据えられた白黒テレビの前には大勢の社員やその家族が集まって興奮と声援の中でプロレスの試合を見ていた。

当時は生活の向上欲をそそる電化製品などが毎年のように次々と出回るようになってきたが、我が家では最低限生活に必要なものしか買っていなかったようだ。戦地生活が長かった軍人あがりの父らしい方針だ。ラジオと言えば、かつて父が組み立てた枠も無い真空管むき出しのものがやはり手作りのスピーカーボックスの上に載っていた。私が高校卒業するころま

で使っていた。故障は主に真空管の球切れで、交換するとすぐ治った。シンプルが良い。

中学生になった私も「初歩のラジオ」という雑誌を基に鉱石ラジオや真空管ラジオ（並三）を組み立て、全米ヒットチャートに載ったアメリカ産の歌などをよく聞いて楽しんだ。

映画館にもよく通った。当時は3本立てが主流で、休日の映画館は常に満杯状態で立ち見席すら奪いあいであった。特に総天然色やワイド画面の映画が人気を集めていた。高校に入って間もなく、やっと我が家にも白黒テレビがやってきた。

当時、舗装道路はろくに無かったが、街には乗用車なども増えてきて、たしか「カローラ」が庶民にもどうにか手が届きそうな50万円で売り出されたような記憶がある。

一般家庭の生活も一層便利になって、生まれた村の原風景と比較すると雲泥の差である。

しかし、この高度成長時代は、高じて廃物ゴミを増やす大量消費時代を生んでしまった。

さらに今ではデジタル、ITなどが日進月歩で、生活も多様化して便利に見えるが、ニューバージョン、ニューモデルなど、数年使用で廃物になってしまう。人間の限りない向上欲は無限で、かつての質素な生活にはもはや戻れない。

私などは幸運にも戦後の平和にどっぷり浸かって、さほどの苦労もないままその物欲に甘んじてきた。今や「認知症」ならず「平和ボケ」になってしまったが、目の前にある人生の終わりに向かって「断捨離」を楽しみつつ、シンプルで平凡な日々を大事に生きようと思う。



我が家の手作り真空管ラジオ（今でも聞ける）

「出会い」シリーズ
第17回

版画の年賀状

野老澤の歴史をたのしむ会・脳活サークル 山本 苗子

先生だけでなく、主婦も忙しい師走（H27年）版画の年賀状をと思い文房具屋・スーパー・百均を巡り訪ねた。「年賀状用の版画板はありますか」若い店員さんは怪訝な顔で「そのようなものは扱っておりません」「売り切れたのかな？」諦めて帰るしかなかった。

小学校での授業を思い出した。落ち葉が舞上る中、軽く結んだ襟巻を結びなおして、冷たい風と闘いながら小学校にたどり着いた。何年生だっただろう、今日の授業をみんな楽しみにしていた。はがきの大ききの板に彫刻刀なるものを使い「版画の年賀状」を作る授業だ。思い思いの絵を半紙に筆で描き、裏返して板に糊づける（裏返しする事で出来あがりには描いた通りの向きになる）。彫るときは注意を受け5種類の彫刻刀はどんな彫り方になるのか恐る恐る試すことに。細い線を彫れる刃、少し太く彫れる丸い刃大小、広い面積を彫れる平たい刃、狭いところを彫れるナイフ型の刃。先生の注意のとおり刃の前に手を置かないことを守りながら彫り始めた（手を切る恐れ）。筆で太めに書いた線の周りを彫り、出来あがりの線に色が付くようにする者、筆の線を深く彫り、線に色が付かない様に考える者、初めてでどうなるか解らないが細工は流々。木屑は口を尖らしてフーフーと吹き飛ばしながら散らかしていたような気がする（反省）。前もって作った「バレン」も興味深い作業だった。肉などを買い包んでもらった竹の皮を各人が家庭で水につけ鞣しておく（宿題）。ボール紙で作った円（6～7cm）に、紙紐で蚊取り線香のようにグルグルとまきながら糊付けする。そして、鞣しておいた竹の皮の中ほどに円を置き（グルグル巻きを下向きに）竹の皮の両端を持ち上げ円を包むようにして上で結び固定する。彫りあがった板に絵具を塗り、ハガキ大の画用紙を乗せ手で抑え自慢の手作り「バレン」でずれないようにソーッと撫でたり、力強く押ししたりした。



そして徐に深呼吸をして、画用紙の端から静かに少しずつつめくった。言うまでもない教室のあちらこちらで「やった～」と歓声。少しガタガタの赤い線も、ブルーのバックに白く浮き出た線も大成功。閉め切った窓の外まで聞こ

えたのか木枯らしの中、体育でドッジボールをしていた生徒達は何事が起ったのかと、ボールを持ったまま呆然とこちらを見ていたのを思い出す。

その後、私も社会人となり家庭の主婦となり目上の人や友人、親戚と新年の年賀状のやりとりが始まった。お茶目に親しみのある年賀状、難しい言葉できちっと書かれた年賀状それぞれの個性が見え何回も読み直した。

文章が苦手な私には皆さんのように気の利いた言葉は書けない。ふと、小学校で版画の年賀状を作り興奮したことを思い出した。「そうだ文字は少なくてすむ！」ずるい考えからであり、技術も小学校の時よりレベルダウンだが干支を子供が描くような素朴な版画にしたので誰にでも受け入れてもらえた。

12支一周りしたら版画板は12年前に彫った同じ板を、色を変えたりして使うことに。12年ごとに版画の干支にも出会える。その度に12年前の、色々なことを思い出して今年も頑張る気持ちを貰える。今では12支は、殆どそろっているが申年だけは抜けている。それは、私が九死に一生を得た大病を患い作ることが出来なかった。完治してから申年になると、12年間元気で無事に過ごせたことを「ありがとう」と忘れずにいえ、先に夢と期待を持つことが出来た。来年（H28年）は申年！今年こそ申を作ろうと思いたち文房具屋、スーパー、百均へと走ったが「そのようなものは扱っておりません」と、どの店にも断られた。同じ板を繰り返して使っている永い間に文化も変わったようだ。手間暇かけないでもパソコンで素敵なお年賀状ができる時代、複雑な寂しさがあった。申は今まで彫ったうちの1枚の裏に彫り（リバーシブル）仲間に入れることにした。

子供の時に教えてもらった「版画の年賀状」の小さな出会いから新しい出会い、多方面への出会いに繋



がり人生の一部となり根付いていたことを実感した。我が家の押し入れの隅には小箱に入れた版画板10数枚と錆びた彫刻刀が積んである。H29年は酉年、小箱を開ける日は、もうすぐ！しかし何十年も受け取っている人達は同じ板と気づいているのかは定かではない。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (池田新八郎 2940-0711)

11月17日(木)13:30~16:00 中央公民館
 古典講座「太平記」第3回 巻3 講師:川上義正先生
 12月8日(木)13:30~16:00 中央公民館
 古典講座「太平記」(第4回 最終回 新年度は新テーマ)

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

11月16日(水)13:30~ 中央公民館 学習室8,9号
 定例会:安田好子氏講演『「出会い」そして…中国編』
 (中国友人との交流など)、米大統領選後のアジア
 12月21日(水) 定例会・忘年会:総会、来期計画打合せ

3. 活いきシニア福祉の会(佐藤 重松 090-5412-5760)

11月1日(火)18:00~社協地域サポーター研修会(社協)
 11月16日(水) 9:30~生涯学習推進センター
 ・ところざわ倶楽部第10期総会について
 ・新入会者と第1回 顔合わせ

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)

11月15日(火)13:15~ 中央公民館 学習室8,9号
 ① 世界3大テノール夢の共演1994 (ロサンゼルス)
 ② 頭の体操・クイズ ③ 次年度活動計画案の提示
 12月13日(火)13:15~ 中央公民館 学習室8,9号
 ① 総会②バレエ「くるみ割り人形」チャイコフスキー

5. 食を通して所沢を知る会 (吉田 麗 2939-9662)

11月1日(火)韓国料理参鶏湯(滋養食)を新大久保で食べる
 12月6日(火)10:00~12:00 ふらっと
 定例会:玉上佳彦氏の講演「サプリメント・健康食品を考える」を行う。サプリメント、健康食品に関心を持つ方は参加待つ

6. 地域の自然を考える会 (海老澤愛之助 2922-0259)

11月23日(水)11:00~14:00
 トロふるさと基金「収穫祭」に参加で定例会に代えます。
 場所 クロスケの家 会費 500円
 会員の皆様、参加してみませんか。

7. 地球環境に学ぶ (塚本 二郎 2942-3117)

11月15日(火)9:00~11:00 柳瀬公民館 定例会
 年度計画や環境問題を自由に話し合います。定例会は
 毎月第3火曜日9時に開催します。入会サークルが決まってい
 ない方、ぜひ覗いてみて下さい。12月は20日、柳瀬です

8. ところ会 (居田 治 2903-8400)

12月2日(金)スカイツリーと水上バス
 (浅草~水上バス~浜離宮、築地)
 1月12日(木)柴又七福神巡りと寅さん
 (帝釈天他と寅さん記念館、山田洋次ミュージアム)

9. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口 元也 090-9820-5668)

12月7日(水)13:00~15:00 中央公民館 1階 学習室
 定例会 議題 ・「なんでも塾2回」企画会議
 ・地域デビューに向けた取り組みについて
 チアダンス練習日:11月12、26(土)13:00~ ふらっと
 どなたでも参加できます。大歓迎!

10. 所沢の自然と農業 (清水 仁一 2944-8835))

11月10日(木)11:00~「むい食堂」にて 定例会&食事会
 11月20日(日)12:00~ 市民大学ファーム「秋の収穫祭」
 12月18日(日)10:00~「くぬぎ山・駒が原の森」の保全活動
 12月下旬 陽子ファーム落ち葉掃き準備(枯れ枝処理)

11. 野老澤の歴史をたのしむ会 (大山 豊 2993-0818)

11月10日(木) 狭山三十三観音巡り
 11月17日(木) 鎌倉街道を歩く

12. ドラマティック・カンパニー (柳澤千賀子 2968-5035)

12月3日(土)10:00~12:00 中央公民館
 シェイクスピアの「コリオレイナス」を読み進めます。

13. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

11月8日(火)10:00~12:30 西新井町公民館
 ■洋画「2001年宇宙の旅」'68年(S43年) 英米製作
 11月29日(火)10:00~12:30 西新井町公民館
 ■洋画「戦場のメリークリスマス」'83年 デビッド・ボーイ
 *上映前に年度纏め会を開催

14. 脳活サークル (加曾利厚雄 2939-2308)

11月28日(月)13:30~15:30 生涯学習推進センター101
 定例会 会員各自の脳活と話し合い &
 100歳までボケない101の方法

15. 北欧の会 (樋口 俊夫 090-6483-7993)

11月25日(金)15:00~17:00頃 松井公民館
 第72回例会 持ち寄り学習 DVD 観賞他

16. 傍聴席 (高垣 輝雄 2926-7164)

11月21日(月)14:00~ 中央公民館 学習会
 テーマ: 所沢市危機管理課の出前講座
 先月予定が、危機管理課と日程調整が調わず11月実施
 となりました。(詳細は倶楽部のHPをご覧ください)

17. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

11月18日(金)10:00~12:30 中央公民館 学習室5号
 「民話・昔のところざわの風景」の確認と語り
 12月16日(金)10:00~12:30 定例会&昼食会
 12月20日(火) ひばり児童館で「民話を語る会」

18. 歴史散策クラブ (大河原 功 2943-2004)

11月29日(火)8:40 所沢駅2階改札内集合
 紅葉の本土寺と戸定邸を訪ねる
 12月17日(土)15:00 但し、班長、会計は14:00 集合
 小手指公民館分館 総会&忘年会



むさし野俳句会（二十八年十月） 作品抄



| | | | |
|----------------|--------|-----------------|-------|
| 真田井戸抜けて芒の西櫓 | 平栗 彰子 | 結願の長き説教栗の飯 | 佐藤 八郎 |
| 秋寒し両手で受くる朝の椀 | 宮本 信生 | 秋天や渋谷駅前交差点 | 白神 恵子 |
| 外風呂の薪爆する音流れ星 | 荒幡千鶴子 | 地を蹴りて子の逆上がり赤とんぼ | 高梨 千代 |
| 茎切りてばさりと浴びる芋の露 | 飯泉 陽子 | 一切を閉ざして下りる山の霧 | 高橋三加子 |
| ひんやりと触診をはる秋燈下 | 井出 昇 | 秋の昼民話語りて笛を添へ | 高光 泉 |
| 日の朝の襟元を知る赤い羽根 | 海老澤愛之助 | 秋寒し古傷うづく朝かな | 利根川啓一 |
| 私語止んで流星ショーの運動場 | 粕谷のぼる | 秋寒や擦り切れてゐる葉紐 | 中嶋 弘子 |
| 秋うららベンチに人と犬二匹 | 河瀬 俊彦 | 雲の穴見つけて出でし今日の月 | 中村 直子 |
| 山車庫に錠掛け終はる秋祭 | 小林 貞夫 | キトラ古墳眠るは誰ぞ流れ星 | 橋本 直子 |
| 炊きたての新米櫃に移しけり | 小林 典子 | 黒々と鎮まる大地星月夜 | 鈴木 征子 |

【私の健康法 第41回】

家内の健康管理に感謝！

ドラマティック・カンパニー 高橋 信行



私の健康法は？と聞かれても特に何かしていることはありませんが、お蔭さまでこれまで大病もせずケガも無く神経を病むことも無く、無病息災で今日まで生きております。神仏のご加護を思い、両親からの遺伝と育ての恩とそして家内の健康管理に感謝するのみです。

子供の頃はひ弱で体力無く、幼稚園にも行かれず小学校に上がれるかと心配したと聞かされました。青成瓢箪とのあだ名もあったようです。そういう軟弱体質を変え今ある健康状態をもたらしたのは、学生時代に続けた合気道かもしれません。体力低下が始まると言われる 20代前に始めた運動が基礎体力を付けてくれたのだらうと思います。社会に出てからは全く離れてしまい、今やれといわれても体がもちません。然しながら普段の生活をしていく上での体力には問題は無いので、それに甘んじているのが今ある私です。

とは言うものの、何もしなくても酷い疲れを感じたりいつの間にか居眠りをしていたりと、よく言われる加齢からくる症状（体力低下？）を感じるこの頃です。故にこれからも「健康」でいるために（体力増強とは言いません）、「よく飲み、よく食べ、よく笑い、そしてラジオ体操」を私の健康法として始めて行こうかと思う今日この頃です。

《編集後記》

▼深まりゆく秋、我が家の近くに「弘法の三つ井戸」があり、側に巨大な銀杏の樹がある。

鳩立つや銀杏落葉を振りかぶり 高浜虚子
晩秋の侘しさの中に、困っていた弘法様に水を差した土地のめどっこ（少女）の民話が偲ばれる。

▼「民話の会」は所沢の民話を、小学校、老人ホーム等を訪問して語りの活動を続け、各地で引く手あまただそう。2班、3班集体にしたいそうだが会員が少数（7人）で、活動もままならないとのこと。

▼ところざわ倶楽部の中にも、年月を重ねるうちに会員数が減り、活動維持が大変なサークルが幾つかあるようだ。「民話の会」のように地道に地域貢献しているサークルをなんとかサポート出来ないものだろうか。

▼今回の島川さん「なぜ倶楽部なのか」の提言に賛同。「楽しく学び、出来れば地域に貢献できる」、この倶楽部の原点を大事にしていきたいものだ。（池田）

「広場」問い合わせ 仲山 富夫 (090-3902-0283)

川柳⑭

課題「運動会」

作品発表

中島峯生 選

| | |
|-------------------|-------|
| うさぎ連アンダーハンドでリベンジよ | 丘の河童 |
| ときめいたフォークダンスは孫の手に | 突拍子 |
| 夢を見たやった一番徒競走 | 海さとする |
| 一等賞孫に託して夢破れ | りんご好き |
| パン食いで味わいながらゴールイン | 庵閑子 |
| 前日の練習しすぎ走れない | どうし |
| 「自由句」 | |
| 体操でいまだに迷う左右 | りんご好き |
| 八合目まで登ったぞ二合飲む | 庵閑子 |
| かあさんらサプリメントでLサイズ | 丘の河童 |
| また電話お墓にホールお仏壇 | 突拍子 |
| ラーメンを作ってくれる人がいい | 海さとする |
| 謎の部屋役人たちが泥遊び | どうし |

次回 課題「思い」又「自由句」 11月20日締切
担当 中島まで

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp FAX04-2928-1161